

1 学力向上検討委員会構成

学 力 上 向 上 検 討 委 員 会		
職名・校務等担当名	氏名	
管理職	校長 教頭	林 素弘 坂本美恵、伊丹三郎
学力向上推進員	教諭(教務課長) 教諭(学部長)	久米清一 (小)福崎久美 (中)四宮美和子 (高)伊井 敏
委員	指導教諭(企画総務課長) 教諭(進路指導主事) 教諭(教務主任) 教諭(企画総務課 研究・研修担当者)	山田千代 佐藤和彦 (小)中村敏恵 (高)豊田尚子 谷口夏紀

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(Ⅰ・Ⅱ類型) 児童生徒の状況			
よさ	学校生活の中では、自力歩行したり、歩行器・車椅子・電動車椅子等の補助的手段を活用したりしながら自分なりに移動することができる。今まで習得した動作性や操作性を使って意欲的に活動することができる。	課題	日常生活に必要な様々な動き(活動)にぎこちなさがみられる。そのため、周りの援助に必要以上に頼りがちである。日常生活に必要な基本的な動きや作業に必要な基本動作の習得が必要で、巧緻性・持続性の向上を図ることが課題である。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
<Ⅰ・Ⅱ類型>日常生活に必要な基本的な動作を少ない支援で行うことができるようにする。		身体の動きの課題に関する個別の指導計画の各学期の目標で、「目標に十分達した」、「目標に達した」という評価を80%以上とする。	
			評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
専門家の指導を得ることで、身体の動きに関する指導力を高め、各児童生徒への指導に活かす。 * 中間期の見直し		①身体の動きに関する実態把握や指導方法等について、専門家のアドバイスや自立活動担当教員の指導を年間3回以上受け、改善に活かす。 ②指導方法についてケース会を年2回以上行い、共通理解を図る。 ③グループ内の児童生徒1名に対して自立活動の流れ図を作成し、実態と指導を明確にし、身体の動きの目標・内容の確認をする。	
達成状況を踏まえた改善事項			
(Ⅲ～Ⅳ類型) 児童生徒の状況			
よさ	日常生活の中で、嬉しいこと、嫌いなことなどの自分の感情を全身や身体の各部位を使った動きで表現することができる。また、興味関心のある物に対して、意欲的に身体や手を動かして関わろうとする姿がみられる。	課題	身体への適度な緊張状態を作るのが難しく、日常生活に必要な基本動作の習得が十分でない。日常生活に必要な姿勢保持や移動、手足の動きの改善や関節の拘縮や変形の予防を図ることが課題である。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
<Ⅲ・Ⅳ類型> ・リラックスまたは適度な緊張状態での姿勢の保持、移動、上肢の動きなどの基本的な動作が支援を受けながらできるようにする。		身体の動きの課題に関する個別の指導計画の各学期の目標で、「目標に十分達した」、「目標に達した」という評価を80%以上とする。	
			評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
専門家の指導を得ることで、身体の動きに関する指導力を高め、各児童生徒への指導に活かす。 * 中間期の見直し		①身体の動きに関する実態把握や指導方法等について、専門家のアドバイスや自立活動担当教員の指導を年間3回以上受け、改善に活かす。 ②指導方法についてケース会を年2回以上行い、共通理解を図る。 ③グループ内の児童生徒1名に対して自立活動の流れ図を作成し、実態と指導を明確にし、身体の動きの目標・内容の確認をする。	
達成状況を踏まえた改善事項			